



羽黒・芸術の森 運営会議



活動地：鶴岡市羽黒町仙道字一本松 5-175「羽黒・芸術の森」

団体紹介：

洋画家、今井繁三郎が残した敷地全体を『羽黒・芸術の森』と名付け、「今井アートギャラリー」、レストラン「オープンカトウ」、「羽黒の小さな森」を維持管理しつつ、広く皆様に愛される場所づくりに取り組んでいます。その一環として、小さな森の市（マーケット）を 10/22～24 に開催。遊歩道『sigesaburoad』のお披露目にもなりました。また、結婚式の前撮りの撮影場所にもなり、森の整備が新しいニーズも生む、という良い循環がありました。



今井アートギャラリー



森の中でのマーケット



オープンカトウ

●活動内容●

●8月7日●「小さな森の道づくり」（昨年引き続き3回目）を開催。事前調査も行いつつ、山大菊池准教授とつるおか薪倶楽部の指導の下、森の資源を活用した遊歩道作りを行った。同時に昨年までに作った遊歩道に生えた草の除去や周囲の枝や蔓を払うなど、整備も行った。また、今後遊歩道が浸水するのを防ぐために池の排水改善も引き続き行った。昼食は薪を使った窯でピザを焼いた。昨年、薪づくりに関わった参加者も多く、薪から得る火（エネルギー）で焼くことで、森から得られる恵を守る大切さを体感した。午後からは次回の道づくりで使う予定の木杭に柿渋を塗布。その後も塗布と乾燥を繰り返し作業した。●10月10日●「小さな森の道づくり」（4回目）を開催。今回も山大菊池准教授とつるおか薪倶楽部、そして東北芸工大の指導の下、遊歩道の目線誘導のための木杭の打ち込みとロープがけ、周囲の枝と蔓払い、遊歩道の草刈りと番線打ち込みなど、遊歩道の完成に向けて取り組んだ。また、遊歩道にはこの地を残した今井繁三郎に敬意を表し「shigesaburoad」と名づけ、羽黒高校工業科の皆さんによる看板もお披露目となり、皆で打ち込み作業をした。



労働の後、森の中で食べる薪で焼くピザは何よりのご馳走

森の中から杉の葉を集めて敷き、ヤシ繊維のマットを番線で留めました



木杭には天然の防腐剤である柿渋を何回も何回度も塗り重ね

遊歩道の周囲に生えた蔓や木々の伐採作業も同時に実施



遊歩道の両脇に木杭を打ち込み、歩行者を誘導



歩道看板森を訪れる方がこれを見て遊歩道へ行く姿がみられるようになりました

自然素材を使い、あえて手をいれず、自然の力で維持する。今後遊歩道に守っていかなくてはならない

活動を行っての感想

3年目の今年は、過去2年間に作ってきた遊歩道の手入れと、その先の遊歩道の整備をすすめ、木杭による目線誘導柵、整備が進んだことで人が進入しそうな危険箇所への通行止め柵、遊歩道案内看板まで発展し、沢山の人が関わった1年となりました。毎回重労働ながら、関わった皆さんが笑顔で終わられるのが励みにもなりました。来年以降も整備をすすめ、森の中で遊べる場にする。さらには、これからの「羽黒の小さな森」をプランニングし、5年後、10年後、100年後を見据えた参加型の「森育て」事業を行い、より多くの人々が森に関心を寄せる環境づくりを計画しています。